

子どもたちを 福祉犯被害から守るために

※子どもの心身に有害な影響を与え、子どもの福祉を害する犯罪

SNSやオンラインゲームを起因として子どもたちが福祉犯被害に遭うことがあります。子どもたちも「インターネットで知り合った人に直接会ったり、個人情報教えるのは危ない」という認識があるものの、なぜ、被害は減らないのでしょうか？



福祉犯被害の手口

被害の中には子どもたち自身が「危ない」「騙されている」という認識がないまま、トラブルに巻き込まれるケースがみられます。これはトラブルに至るまでに加害者が子どもたちの信頼を得るための振る舞いをしていることが要因になっています。

【信頼を得る振る舞いの例】

- ・「趣味が同じだね」などと多くの共通点があって、特別な友達になれること示す
- ・「自分は君の理解者。何でも相談してほしい」と唯一の味方であることを強調する
- ・オンラインゲームの協力プレイで優しく接し、頼りになる人だという印象を与える

その結果、子どもたちは相手を信頼できる人だと思い込んでしまい、同時に両親や学校の先生と距離を取るよう仕向けられてしまいます。そして周りが異変に気が付けないまま、子どもたちが福祉犯被害に遭ってしまうのです。

【トラブルの事例】

加害者は小学生の女の子とオンラインゲームで知り合い、一緒にゲームをする中でゲーム内の通話機能を使ってコミュニケーションを取っていました。知り合って数日後、加害者が「一緒にゲームしよう」と誘ったところ、女の子が応じたため、車で迎えに行き、連れ去りました。幸い、女の子は警察によって2日後に無事保護されました。

子どもたちを守るために

子どもたちの中には家庭や学校の悩みを相談できる人が身近におらず、その満たされなさをインターネットに向けてしまう子がいます。福祉犯の加害者はその満たされなさにつけ込んで近づいてくるケースも多くみられます。

両親や学校に話づらいことがあれば、第三者に相談できる場所があることを日頃から教えておきましょう。



➤ 悩みを相談するのなら信頼できる場所へ（児童生徒向け資料 2020年03月更新）

<https://webreport.pit-crew.co.jp/hokkaido/helpsite/image/j2003.pdf>

